

令和4年度

朝来市教育委員会 事務事業評価表

第3期あさご夢・学びプラン		事業名	事務の目的	事業の内容等	課題		評価理由
基本方針	基本的方向				次年度に向けて		
I ふるさと朝来を愛し、夢と自信をもち、可能性に挑戦する力を育成します。	1 生きる力の育成	1 小・中学校特色ある学校づくり事業	各学校で、子どもたちが地域の「歴史」「文化」「人」「産業」に目を向けることにより、「ふるさと愛の醸成」を図る。	小 知・徳・体の調和を生かしながら、児童に「生きる力」を培うことを目的として、それぞれの学校で特色ある実践事業を展開した。 各学校で、地域教材を活用し、地域に住む人々あるいは自然や歴史的な遺産等に触れる体験を通して、自尊感情や郷土愛の向上を図った。 広く社会で活躍されている地域の専門家、大学教授や一般企業の方などを学校に招聘し、専門的な授業や講演を通じて、児童に夢を抱かせた。	現在認識している課題	各校が継続して取り組む活動を実施することで、各校の特色ある活動(ふるさと愛の醸成につながる体験活動)として定着させることをめざしているが、活動がマンネリ化しないよう、取組内容を段階的に充実させる必要がある。	
				中 知・徳・体の調和を生かしながら、生徒に「生きる力」を培うことを目的として、それぞれの学校で特色ある実践事業を展開した。 各学校で、地域教材を活用し、地域に住む人々あるいは自然や歴史的な遺産等に触れる体験を通して、自尊感情や郷土愛の向上を図った。 広く社会で活躍されている地域の専門家、大学教授や一般企業の方などを学校に招聘し、専門的な授業や講演を通じて、生徒に夢を抱かせた。	今後の方向、見通し、対応策等	各校の特色ある活動として、継続して同じ内容に取り組む伝統的的事业を1つもの柱、そして、2つ目の柱として、現在の児童の現状や社会情勢を反映させた取組を各校で学校運営協議会と協議しながら設定することで、事業のマンネリ化を防ぎ、特色ある学校づくりに充実させていく。	
					現在認識している課題	例年、多くの学校で似通った取組が継続的に実施されており、特色ある取組にまでは至っていない。また、授業時数の確保の観点から精査する必要がある。	
					今後の方向、見通し、対応策等	重点事業として、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることにより、継続的に取り組む伝統的な取組と現在の教育的課題解決に向けた取組を両輪とし、今後も事業を継続し、ふるさと教育の充実につなげる。	
						現在認識している課題	・英語に関して苦手意識をもっている児童生徒の英語学習に対する意欲の低下 ・学習指導要領を踏まえた授業づくり(「聞くこと」「書くこと」から「話すこと」の重視へ) ・英語に対して教職員が苦手意識をもっている。
			2 英語教育強化事業	学習指導要領に基づき、児童生徒の英語における語学力定着とコミュニケーション能力の育成に向けた教員の指導力向上を支援する。	・フォニックス指導の実施 ・大学教授による研修会の開催 ・英語教職員、ALT、地域人材等による授業実施 ・主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業の展開 ・英語能力の育成及び学習意欲向上のため、中学生の実用英語技能検定料(3級以上)の補助	今後の方向、見通し、対応策等	・大学教授を招聘し、課題解決に向けた研修を開催する。(授業参観から課題抽出、課題克服の具体策を指示してもらう) ・英語検定料補助による英語に対する興味関心、意欲向上をめざす。
			3 英語指導助手設置事業	国際社会の一員として様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。	市が雇用するALT(8名)を雇用し、市内の各小・中学校へ派遣した。 ・ALT連絡会の開催(月1回) ・ALT来日・帰国に関する手続き(2人来日、2人帰国) ・ALT住居等の生活環境整備(随時) ・新規ALTの招致要望(12月)	今後の方向、見通し、対応策等	・朝来市を離れるALTの指導のノウハウを継承する。 ・ALTと教員が綿密に授業の打ち合わせを行う。 ・児童生徒や教職員の英語を話すことに対する苦手意識を払拭する。
			4 教職員研修事業	教職員の研修と教育に関する調査研究を行い、教職員の資質向上を図る。	朝来市教育研修所を設置し、教員の資質を向上させるため研修の機会を設けた。市内の教職員全員がそれぞれの課題や担当に応じて研修に努めた。 ・教育研修会講演 「子ども理解に基づいた指導について ～子どもたちの体づくりこころほぐし～」 関西国際大学 教授 中尾 繁樹 氏 ・指定校研修:生野こども園、大蔵こども園、梁瀬小学校、和田山中学校 ・指定グループ研修:小小連携推進事業1年生部会 ・職種別・課題別研修:養護教諭部会、事務職員部会 ・授業づくりのユニバーサルデザイン化事業:中尾繁樹関西国際大学教授を招へいし、市内小・中学校にてアセスメントや授業研究等の研修会を実施した。 ・朝来市の教育方針「指導の重点」等発刊 ・研究紀要、指導の重点、指導の重点ダイジェスト版を発刊	今後の方向、見通し、対応策等	・ICT支援員を学校に派遣し、タブレット端末の活用(校外での活用含)に向けた指導助言を行う。 ・学校経営に積極的に参画する教員の育成を行う。 ・授業力向上のための教職員の自主的研修の実施につながる指導助言を行う。
			5 「確かな学力」育成事業	学習習慣を定着させ、必要な知識や能力、学習意欲を身につけ学力向上を図る。	・全国学力・学習状況調査結果の分析・検証に基づき、学力向上に向けて、教員OB等の地域人材を活用し、授業中や放課後の学力向上方策に取り組んだ。 ・市内小・中学校12校にのべ17人の指導員を配置	今後の方向、見通し、対応策等	児童生徒の基礎学力の定着に向けた課題に対応できる指導者としての地域人材の確保していくか。 学校OBや非常勤講師を幅広く登用していく。

	2 さまざまな支援を必要としている子どもへの対応	6 小学校学びのサポーター配置事業	特別な支援を必要とする児童の就学支援体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びのサポーターの配置等 令和4年度配置人数…21人</li> <li>○実施内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級や特別支援学級において、支援が必要な児童に対し、担任等と連携し、学習活動が円滑に進むようサポートを行った。</li> <li>・装具を着用している児童やアレルギー対応の児童の身体の安全確保のため、休み時間や給食時の支援を行った。</li> <li>・集団生活に入りにくい児童に対して、担任との連携をとりながら、情緒の安定を図り学校生活が円滑に送れるよう支援を行った。</li> <li>・特別支援教育に係る学校訪問を行い、サポートをしている授業の様子を参観したり、サポーターとの面談を通じて勤務の様子を把握した。</li> <li>・学びのサポーター研修会を関係機関と連携して実施し、児童への支援の方法や実態把握について専門性を高める研修を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級にも発達障害を含む様々な支援を必要とする児童が在籍しており、学びのサポーターの配置に対する要望は増加するとともに支援内容が多様化している。</li> <li>・サポーターの増員のみで対応するのではなく、教職員の特別支援教育に関する資質を向上し、校内支援体制を充実させることが必要である。</li> <li>・今後も学校からの意見を聞き、教育委員会で協議しながら、児童の個に応じた支援体制の充実のため、必要な学校に学びのサポーターを配置する。</li> <li>・関係機関と連携しながら、各校の特別支援教育コーディネーターを対象とした研修を実施し、教職員の資質向上を図る。</li> </ul>	
		7 中学校学びのサポーター配置事業	特別な支援を必要とする生徒の就学支援体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びのサポーターの配置 令和4年度学びのサポーター配置人数…6人</li> <li>○実施内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級や特別支援学級において、支援が必要な生徒に対し、教科担任等と連携し、学習活動が円滑に進むようサポートを行った。</li> <li>・特別支援教育に係る学校訪問を行い、サポートをしている授業の様子を参観したり、サポーターとの面談を通じて勤務の様子を把握した。</li> <li>・学びのサポーター研修会を実施し、生徒への支援の方法や実態把握について専門性を高める研修を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級にも発達障害を含む様々な支援を必要とする生徒が在籍しており、学びのサポーターの配置に対する要望は増加するとともに支援内容が多様化している。</li> <li>・サポーターの増員のみで対応するのではなく、教職員の特別支援教育に関する資質を向上し、校内支援体制を充実させることが必要である。</li> <li>・今後も学校からの意見を聞き、教育委員会で協議しながら、児童の個に応じた支援体制の充実のため、必要な学校に学びのサポーターを配置する。</li> <li>・関係機関と連携しながら、各校の特別支援教育コーディネーターを対象とした研修を実施し、教職員の資質向上を図る。</li> </ul>	
	3 いじめ・不登校へ対応	8 適応指導教室事業	学校生活への適応が困難になり(長期にわたって)学校を欠席している児童生徒に対し、個に応じた指導及び支援を組織的かつ計画的に行い、社会的自立をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒に対する指導・支援</li> <li>・保護者への教育相談</li> <li>・学校との連携、相談及び学校への指導助言</li> </ul>	<p>現在認識している課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に至っていないケースがまだまだあると思われる。</li> <li>・学校、家庭等に更なる周囲を図り、理解を深める必要がある。</li> <li>・学習支援方法の更なる工夫</li> </ul>	
					<p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関や関係職員(スクールソーシャルワーカー等)との連携を深める。</li> <li>・学校に出向いたり、場合によっては家庭訪問する等して、相談活動の幅を広げていく。</li> </ul>	
	II 地域総ぐるみで「地域と共にある学校園」を創造します。	地域との協働による学校づくり	10 コミュニティ・スクール推進事業	コミュニティスクール(学校運営協議会制度)を活用し、学校、保護者そして地域住民がともに知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていくことをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会において、学校運営基本方針の承認や、教育活動などについて意見交換を行うことで保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させた。</li> <li>・広報誌等を発行し、地域に向けて情報を積極的に発信した。</li> </ul>	<p>現在認識している課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員の固定化</li> <li>・学校評議員制度と学校運営協議会の違いが、委員の中で明確になっていない。</li> <li>・「学校がするもの」という委員の先入観がある。</li> </ul>
						<p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会が学校運営協議会に参加し、情報提供を行う。</li> <li>・学校運営協議会の活動を学校外に発信する。</li> <li>・ホームページや広報誌を作成する。</li> </ul>
		11 小学校整備事業	市内小学校の施設改修行い、安全で質の高い教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内小学校の改修希望箇所調査</li> <li>○市内小学校の改修箇所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・糸井小学校プール漏水等補修工事</li> <li>・複合遊具更新工事(4校)</li> <li>・生野小学校家庭科実習室赤水対策工事</li> <li>・竹田小学校シャワーパン設置工事</li> <li>・その他修繕工事</li> </ul> </li> </ul>	<p>現在認識している課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい財政事情のため、各学校からの改修要望箇所と実施件数に差が生じている。</li> </ul>	
					<p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漏水等の突発的なものを除き、改修箇所の査定を行い緊急順位の高いものから実施していく。</li> <li>・施設の老朽化も目立つため、計画的に大規模改造等を実施し、施設の長寿命化をめざす。</li> </ul>	

Ⅲ これからの時代に対応するための教育環境基盤を整備し、教育成果を共有します。	これからの時代に向けた持続可能な教育体制の整備	12	中学校整備事業  市内中学校の施設改修行い、安全で質の高い教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内中学校の改修希望箇所調査</li> <li>○市内中学校の改修箇所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生野中学校エアコン取替工事</li> <li>・朝来中学校汚水配管改良工事</li> <li>・和田山中学校エアコン修繕工事</li> <li>・その他修繕工事</li> </ul> </li> <li>○朝来市中学校校舎LED化工事設計業務</li> <li>○朝来市立和田山・朝来中学校防火設備改修工事設計業務</li> </ul>	現在認識している課題	厳しい財政事情のため、各学校からの改修要望箇所と実施件数に差が生じている。
		13	小学校教育振興事業  小学校が創意工夫し、特色を生かして教育活動を展開するために必要な環境整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立小学校の教材等経費。各学校に必要な経費予算を配当し、必要な教材等を購入した。ICT環境の整備を行った。</li> <li>・理科算数振興備品購入(3校分)</li> <li>・各校教材備品購入</li> <li>・校務用パソコン更新</li> <li>・教育用ICT機器リース(R元.9～R6.8)</li> <li>・教育用センターサーバーリース(H29.11～R4.10)</li> <li>・校務支援システム(H30.1～R4.12)</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のICT機器活用能力に差があるため、能力を習得する機会を設ける必要がある。</li> <li>・多数の端末が一斉にインターネットに接続して作業を行った場合、遅延が発生する事業が確認されている。</li> </ul>
		14	中学校教育振興事業  学校が創意工夫し、特色を生かして教育活動を展開するために必要な環境整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立中学校の教材等経費。各学校に必要な経費予算を配当し、必要な教材等を購入した。ICT環境の維持・整備を実施した。</li> <li>・理科数学振興備品購入(1校分)</li> <li>・各校教材備品購入</li> <li>・校務用パソコン更新</li> <li>・タブレット端末他ICT機器保守</li> <li>・教育用ICT機器リース(R元.9～R6.8)</li> <li>・教育用センターサーバーリース(H29.11～R4.10)</li> <li>・校務支援システムリース(H30.1～R4.12)</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のICT機器活用能力に差があるため、能力を習得する機会を設ける必要がある。</li> <li>・多数の端末が一斉にインターネットに接続して作業を行った場合、遅延が発生する事業が確認されている。</li> </ul>
		15	子ども子育て支援計画策定事業  子ども・子育て関連3法(子ども・子育て支援法、認定こども園法一部改正法、整備法)が平成24年8月22日に公布され、すべての子どもの良質な成育環境の保障及び子ども・子育て家庭を社会全体で支援するための新制度が平成27年度からスタートしている。新制度をさらに計画的に推進するため策定を義務付けられている「朝来市子ども・子育て支援事業計画(第2期)」を策定し、令和6年度までの「質の高い学校教育・保育の一体的な提供」、「保育の量的拡充」、「家庭における養育支援の充実」等、必要な確保方策を推進する。計画の進行管理と、必要に応じ計画・確保方策の見直しすることにより、朝来市における子育て支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度に策定した第2期朝来市子ども・子育て支援事業計画の進行管理を行う。</li> <li>・令和4年度は計画・進行管理等を確認していただく子ども・子育て会議を1回開催した。</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育料無償化により、保育施設等の利用を希望する保護者や、子育て支援施設の利用を希望する保護者の増減がどのように事業に反映するかをしっかりと見極めなければならないと考える。</li> <li>・出生児数の減少に伴い、事業対象児童が年々減少する半面、共働き世帯の増加等による多様な保育ニーズ、子育て支援ニーズに対応した施策展開が求められる。</li> </ul>
		今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用について、教員の希望に沿う形(必要とする内容)で研修および支援を実施する。</li> <li>・現状で最も効果的な外部環境の改善方法を決定し、所要の整備を検討する。</li> </ul>			
		今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用について、教員の希望に沿う形(必要とする内容)で研修および支援を実施する。</li> <li>・現状で最も効果的な外部環境の改善方法を決定し、所要の整備を検討する。</li> </ul>			
今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漏水等の突発的なものを除き、改修箇所の査定を行い、緊急順位の高いものから実施していく。</li> <li>・施設の老朽化も目立つため、計画的に大規模改造等を実施し、施設の長寿命化をめざす。</li> </ul>					

IV 朝来の未来を支える多様な力を培い、人材を育成します。	1 就学前教育・保育の充実	16	<p>私立保育所・こども園特別保育支援事業</p> <p>地域子ども・子育て支援事業に取り組む市内の私立保育園及びこども園等に対して補助を行うことにより、子育て支援の充実を図る。</p>	<p>【延長保育事業】6園 【地域子育て支援拠点事業】4園 【一時預かり事業】6園 【病児・病後児保育事業】病児1院、病後児1園 【病児保育サポート事業】6園 【利用者支援事業】2園 【放課後児童健全育成事業】3園</p>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<p>・支援を必要とする子どもの保育を充実させるために、加配保育教諭を配置することで、私立こども園・保育園の負担を軽減する必要があるが、支援が多岐にわたることから、対応できる保育教諭を確保することが難しくなっている。 ・多様化する保護者の保育ニーズに対応していく必要がある。</p> <p>・支援を必要とする子どもも安心して保育園・こども園を利用するためにも継続実施する。 ・国、県制度を活用し、私立園等を支援していく。</p>	
		17	<p>私立保育所・こども園運営改善支援事業</p> <p>私立保育園等の安定経営と延長保育等の特別保育事業に積極的に取り組む私立保育園等に対して補助金を交付し、保育内容・保育環境の充実を図る。</p>	<p>○負担金及び交付金【運営改善事業補助金】 市内私立保育園等6園及び1施設に補助 1 事務費補助分として、定員数×10,000円×12ヵ月 2 事業費加算分として、朝来市保育所等運営補助金交付要綱の別表に掲げる対象事業のうち、実施事業数×年額100,000円 別表の対象事業 ・保育所地域活動事業：6園 ・延長保育促進事業：6園 ・一時預り事業：6園 ・地域子育て支援拠点事業：4園 ・障害児保育事業：1園 ・病児・病後児保育事業：1園1施設 ・利用者支援事業：2園 3 給食費(副食費)補助：市内私立園、管外園 4 給食費(燃料等高騰対策分)補助：市内私立園 5 光熱費高騰対策補助：市内私立園、市内私立放課後児童クラブ</p>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<p>保護者のニーズにより年度ごとに利用園児が変動するため、各園における運営の見通しや事業の実施状況について把握する必要がある。</p> <p>交付申請及び中間報告時等に各園にヒアリングを行う等、各園の運営の見通しや事業の実施状況について把握する必要がある。</p>	
		18	<p>こども園学びのサポート配置事業</p> <p>こども園に在籍する特別な支援を要する園児について、介助員を配置し、支援を必要とする園児の発育を促す。</p>	<p>・特別な支援を必要とする園児の保育を実施するための人材の確保 ・介助員が必要なこども園に対し、介助員、パート職員を配置</p>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<p>潜在的に支援を必要とする園児が増加傾向にあり、また、症例が多岐にわたり、発達のスピードや、支援の必要度合いが、一人一人異なり、1対1での加配を必要とするケースも増加傾向にある。しかし、支援を要する園児の増加に伴い、1対1の対応ができる介助員の配置ができておらず、複数人の園児を1人で支援しているケースがある。</p> <p>・介助員を継続的に募集し、適正な配置ができるように努める。 ・市主催の介助員研修や、県・各種団体が主催する研修に参加し、園児一人一人に寄り添った手厚い支援を提供できるよう介助員の資質向上に努める。</p>	
	V 誰にも保障される、充実した学びを支えるセーフティネットを構築します。	関係機関・地域と連携した子育て支援の充実	19	<p>放課後児童対策事業</p> <p>小学校1年生から6年生までの児童を対象に学童クラブを開設し、放課後、就労等で保護者が不在の家庭に対し、子育て支援を行うことにより、保護者が安心して就労及び子育てが出来る環境を整える。</p>	<p>・放課後家庭において保護者の保護が受けられない小学校児童の保育を、小学校区毎の学童クラブにおいて行う。 【運営等】 ・対象：小学校児童(療育が必要な児童は入所制限) ・市内公立学童クラブ9カ所。19人までは支援員2人体制、20人以上は3～4人体制 ・公立学童クラブの9カ所については運営委託 ※私立照福こども園(H27年度から)、枚田みのり保育園(H30年度から)、やなせこども園(R3年度から) ・開所時間：授業のある日は、月～金曜日までの平日、下校時から午後6時まで。土曜日・長期休業日(春休み・夏休み・冬休み)は、午前8時～午後6時まで 平日は午後6時30分まで、土曜日・長期休業日は、午前7時30分～午後6時30分まで延長を実施 【支援員】 ・年2回程度、各学童クラブ代表支援員が集まる会議を実施(各学童クラブ毎で支援員だけの会議も定期的開催) ・支援員資格取得のため「放課後児童支援員認定資格研修」「放課後児童支援員の資質向上研修」等の研修参加に係る事務を行っている。</p>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<p>・支援員の高齢化、支援員の確保が課題となっている。 ・支援を要する児童の入所が増加傾向にあり、支援員の研修が必要となっている。 ・現生野学童クラブを旧生野給食センターへ移転させるため、賃貸地の返還に向けた協議が必要となる。</p> <p>・支援員養成のための研修会の講師派遣を支援する。 ・専門家による研修を行う。 ・土地については、土地所有者と協議を行う。</p>
			20	<p>ファミリー・サポート・センター事業</p> <p>子育ての援助を受けたい方(おねがい会員)と子育ての援助を行いたい方(まかせて会員)が、それぞれ会員登録をして、地域で子育ての援助活動を行う。</p>	<p>・ファミリー・サポート・アドバイザーの配置、会員の募集、登録援助活動のコーディネート ・「まかせて会員」を対象とした講習会の開催</p>	<p>現在認識している課題</p> <p>今後の方向、見通し、対応策等</p>	<p>・会員登録者は少しずつ増えているが、援助活動はまだ少ない。 ・顔見知りの会員同士の方が依頼しやすいため、交流会開催を要望する声がある。 ・事業周知を充実させる必要がある。</p> <p>・会員同士の交流会を開催し、援助活動の増加につなげていく。 ・民生児童委員協議会など、各種団体の会議で事業の説明を行い、周知を広めていく。</p>

1 生涯学び続ける力の獲得	21	生涯学習推進員設置事業	生涯学習推進員の配置等により、地域における自主的な生涯学習活動を促進し、学習成果を活かした活力ある地域づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進員連絡協議会学習会の開催</li> <li>生涯学習講演会の開催</li> <li>あらゆる学びのニーズに対応するため、生涯学習に関する多様な人材の発掘</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>各区に1名の生涯学習推進員を設置しているが、区の高齢化や人口減少により選出しにくい地区が生じてきている。</li> <li>地域自治協議会との連携強化を図り、市民の自主的な生涯学習活動を推進していく必要がある。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の生涯学習推進員のあり方を検討していく。</li> <li>地域における生涯学習を推進していくため、地域自治協議会等との連携を検討していく。</li> </ul>
	22	社会教育総務一般管理事業	生涯学習を推進し、市民の生涯学習意欲の向上や地域コミュニティの活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員会の開催(1回)</li> <li>社会教育に係る年間事業計画や各種施策等についての意見交換等</li> <li>青少年問題協議会の開催(1回)</li> <li>青少年の指導、育成等に係る関係団体・関係行政機関の取組についての意見交換等</li> <li>青い鳥学級の開設(2回)</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員会は委員が社会教育に関する意見や助言を行うにあたり、必要な情報として本市が取り組む情報を今後も的確に情報提供する必要がある。</li> <li>青少年問題協議会を構成する女性委員が少ない(13人中1名)。</li> <li>青い鳥学級の学級生やボランティアの固定化、高齢化が進んでおり、継続的な学級活動を実施するため、新規学級生の募集や新規ボランティアの確保が必要である。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員会を開催するにあたり、他課や関係機関と密に連携し社会教育に関する情報提供に努め、委員の円滑な職務遂行を支えていく。</li> <li>青少年問題協議会は今後、関係団体の見直し等を行い、特に子育て世代の女性委員の就任増を図っていく。</li> <li>青い鳥学級の新規学級生の募集や新規ボランティアの確保のため、継続して広報等で周知していく。</li> </ul>
	23	成人式開催事業	二十歳の門出を祝い、「ふるさと朝来市」の良さを再認識する機会の創出や若者リーダーの養成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者(平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの者)の有志(実行委員10名)による実行委員会の開催(4回)</li> <li>記念式典(二十歳を祝う会)</li> <li>二十歳のつどい</li> <li>記念写真撮影(中学校区単位)</li> </ul>	現在認識している課題	開催年度により二十歳のつどい(成人のつどい)実行委員会の委員数や会議出席率等に差が生じている。
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>法律改正により成人年齢が18歳となったが、これまで同様に対象年度に20歳を迎える方を対象とした式典及びつどいを開催していく。</li> <li>例年和田山ジュビターホールを会場としているが、令和6年度に大規模改修工事が行われるため、令和5年度中に開催場所を検討していく。</li> </ul>
	24	少年少女オーケストラ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラシック音楽に触れる機会を提供することで、子どもたちの好奇心や夢を育み、青少年の健全育成を図る。</li> <li>市民にとって身近な音楽文化として、クラシック音楽の普及振興を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期練習(毎週) <ul style="list-style-type: none"> <li>火曜日(18:30～20:00)、土曜日(15:00～17:00)</li> </ul> </li> <li>強化練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季(8月)、春季(3月)</li> </ul> </li> <li>演奏活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>第49回兵庫県交響音楽祭(10月)</li> <li>定期演奏会(11月)</li> <li>二十歳を祝う会オープニング演奏(3月)</li> <li>入団式、歓迎演奏会(3月)</li> <li>出前授業:市内3小学校</li> </ul> </li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏水準を維持向上させるため、団員数の一定数以上の確保が必要である。</li> <li>制限なしの演奏会ができるようになった現在、オーケストラ事業を周知する宣伝や活動をあげ、新規入団員を増やすことが課題である。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーケストラ事業のPRなど啓発活動を行うことにより演奏会への集客を増やし、市民へのクラシック音楽の普及振興を図っていく。</li> <li>青少年健全育成事業として重要な役割を担っており、市独自の人事育成の取組を継続実施していく。</li> <li>令和4年度から開始した市内小学校での「出前授業」を継続実施し、クラシック音楽の普及を図るとともに新規入団員の確保に努めていく。</li> </ul>
	25	図書館運営管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館資料を適切に整備し、市民へ広く情報提供を図る。</li> <li>快適で利用しやすい図書館環境の維持管理を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集、保存</li> <li>資料の貸出</li> <li>レファレンスサービス</li> <li>館内、館外のおはなし会の実施</li> <li>ブックリスト配布等による読書案内</li> <li>ブックトーク[出前授業]</li> <li>ブックスタート[8か月児とその保護者対象]</li> <li>各種行事の開催</li> <li>施設の維持管理</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のニーズに合わせた図書館の運営が求められている。</li> <li>オンラインで使用できる図書館機能のPRが必要である。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者アンケートを実施し、利用者の求める図書館像を調査、検討していく。</li> <li>特にスマートフォンを使用している利用者に対しオンライン機能をPRし、更なる利用促進を図っていく。</li> </ul>
	26	社会教育団体支援事業	青少年の健全育成や市民の自主的な生涯学習活動の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育団体への活動補助金等の交付</li> <li>青少年スポーツ・文化活動団体</li> <li>朝来市文化協会</li> <li>朝来市子ども会連絡協議会</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年スポーツ・文化活動の団体数は例年とあまり変わらないが、チーム内の人数が毎年減少しており、活動が危ぶまれているところもある。</li> <li>子どもの減少により、地区子ども会だけでは活動ができないところも出てきている。</li> <li>文化協会については、加盟団体の高齢化が進んでおり、団体数が減少している。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年スポーツ・文化活動補助金については、団体は固定されているが、着実に上位大会へ出場しており、成果を上げている。青少年健全育成を図るため、今後も適切な支援に努めていく。</li> <li>子ども会連絡協議会が、唯一の市内の子ども会組織を連携する役割を担っており、継続して支援をしていく。</li> <li>文化の維持・充実を図るため、文化協会活動を継続して支援していく。</li> </ul>

VI 生涯学び続け、人生を豊かに生き抜く、活躍できる力を育成します。

	27	保健体育一般管理事業	朝来市スポーツ推進委員会、スポーツクラブ21朝来市推進委員会を核として、市民が気軽にスポーツに親しめるための環境づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝来市スポーツ推進審議会の開催(2回)</li> <li>・推進計画の進捗評価、スポーツ団体への補助金等重要事項の協議</li> <li>・全天候型運動施設整備検討懇話会の開催(3回)</li> <li>・朝来市スポーツ推進委員会の活動</li> <li>・役員会、事業・研修・広報委員会の開催(14回)</li> <li>・市民が気軽に参加できるスポーツ大会や体験会等の実施</li> <li>・委員自らによる市のCATVでのニューススポーツの紹介</li> <li>・スポーツ特集記事の市広報誌への掲載</li> <li>・スポーツクラブ21朝来市推進委員会の開催</li> <li>・今後の運営協議、SC21但馬大会や全県サミットの参加</li> <li>・今後の運営方針についてのアンケート実施</li> </ul>	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候型運動施設は候補地について再度の調整が必要である。</li> <li>・スポーツ推進委員主管事業は気軽に取り組めるスポーツの普及、コロナ禍の影響でスポーツから離れた市民が再度スポーツに取り組むきっかけを作るような事業展開が必要である。</li> <li>・スポーツクラブ21は基金残高の減少、後継者・指導者不足等により活動が停滞しているクラブがある。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員の指導力を生かし、市民に対してより魅力ある、時代に即したスポーツ事業の企画や計画を行い、スポーツを通じた活力ある朝来市づくりを推進していく。</li> <li>・スポーツクラブ21はアンケート結果を基に、クラブ側とのヒアリング等を行いながら、今後の方向性を定めていく。</li> </ul>
	28	体育協会等支援事業	スポーツ活動を促進し、市民の健康・体力づくり、競技力の向上を図る。	朝来市体育協会・朝来市陸上競技協会への活動補助金を交付した。	現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数の減、高齢化している加盟団体が見られる。</li> <li>・種目団体での活動は活発であるが、他スポーツ団体との連携が不足している。</li> </ul>
					今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝来市スポーツ推進委員会・スポーツクラブ21等の団体とも連携を密にし、競技スポーツ者として実技指導、助言できるような組織となるよう支援していく。</li> <li>・令和4年度から取り組んでいる「トップアスリート教室」を継続して実施し、スポーツ人口の増加、ジュニアスポーツ団体の強化につなげていく。</li> </ul>
	29	社会体育事業(全市)	スポーツを通じた健康増進と市民の交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第18回朝来市民ソフトボール地区選抜大会</li> <li>・第18回朝来市長杯バレーボール大会</li> <li>・第10回朝来市民交流ソフトボール大会</li> <li>・2022あさご市スポレク大会</li> <li>・朝来市民スキー・スノーボード教室</li> </ul>	現在認識している課題	コロナ禍の影響によりスポーツ活動の継続が難しかったことから、スポーツを止めてしまった市民や団体があり、参加者の確保が難しくなっている。
				今後の方向、見通し、対応策等	スポーツ関係団体、市民の意見も聞きながら、実施事業について精査していく。	
	30	温水プール運営管理事業	市民の健康増進と心豊かな生活の醸成を育むため、市営温水プールを設置し、適正な運営管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営をシンコースポーツ兵庫株式会社に指定管理(指定期間は令和3年度～令和7年度の5年間)</li> <li>・温水プール運営委員会を開催し、利用者の意見も参考にしながらの運営についての協議</li> <li>・ポンプ修繕</li> <li>・エアハンモーター応急処置、修繕</li> </ul>	現在認識している課題	幅広い方の利用をめざし、運営方針を明確にして継続実施を行う必要がある。
				今後の方向、見通し、対応策等	幅広く意見を求め、運営方針を明確にして継続実施する。	
	31	体育施設整備事業	市民のスポーツ振興と健康増進と利用者が安心して利用できる施設の整備をはじめとした環境整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候型運動施設候補地調査業務</li> <li>・和田山スポーツ公園グラウンド門扉取替工事</li> <li>・朝来グラウンド前遊具設置</li> </ul>	現在認識している課題	体育館など建築から30年余りを経過する施設が増え、老朽化が顕著となる中、優先度をつけた計画的な修繕、改修が必要である。
				今後の方向、見通し、対応策等	公共施設再配置計画に合わせ、今後の方向性を検討していく。	
2 人権教育の推進	32	人権教育推進事業	同和教育事業を重要な柱とした人権教育を推進するため、地域・学校・家庭・行政が連携した学級を開設(教育委員会の権限に属する事務の補助執行)	小中学生を対象とした、あすなろ学級(小学生対象)・希望学級(中学生対象)の開設(あすなろ学級10回、希望学級3回)	現在認識している課題	より多くの児童生徒に参加してもらえるよう、実施方法を工夫する必要がある。
					今後の方向、見通し、対応策等	地域・学校・市が連携し、同和学習がしやすい体制のもと、児童生徒への学習は絶え間なく行うことで、より強い心を持ち適切に行動できるようになるため継続する。
	33	文化財維持管理事業	地域のシンボルとして文化財を守り活用し、地域住民に地域への誇りと関心を持ってもらうとともに、市外からの観光客の興味を惹くことで交流人口を増やす。	国史跡茶すり山古墳、県史跡小丸山古墳環境維持事業	現在認識している課題	歴史文化遺産に対する地域住民の関心も高まっており、補助金を活用した看板設置やパンフレット作成など積極的に地域の文化財の更なる啓発が必要である。
				今後の方向、見通し、対応策等	地域で大切に守られてきた古文書の調査研究と価値付けを行い、次世代への継承を適切に行っていく。	

3 文化財の保存及び活用	34 文化財保存活用事業(天然記念物保護)	朝来市は、多くの天然記念物(生物・樹木)が豊富に生息する環境であり、特に特別天然記念物オオサンショウウオは非常に多く生息している。それらを適切に保護し、住民の誇りの醸成と地域活性化に寄与する活用方法を検討、実施することで、市内外に向けて天然記念物をはじめとする朝来市の文化財の価値を高めていく。	天然記念物の保護業務 ・国特別天然記念物オオサンショウウオの市内河川での生息調査を実施 ・日本オオサンショウウオの会朝来大会の実施 ・天然記念物(樹木)の定期点検 ・朝来市黒川自然環境基本構想を策定	現在認識している課題	生野町黒川地域は豊かな自然環境が残り、オオサンショウウオが多く生息し、長年研究も積み上げられてきた。オオサンショウウオを含めこの自然環境を後世に継承していく必要がある。
				今後の方向、見通し、対応策等	オオサンショウウオの棲む自然豊かなまちとして朝来市をPRしていく。そのためにも、オオサンショウウオをはじめとする豊かな自然環境を紹介し、学習できる施設の整備などを推進していく。
	35 文化財保存活用事業(竹田城跡保存活用事業)	朝来市を代表する史跡竹田城跡を次世代に継承し、地域の誇りとして市民意識の醸成を図る。	○竹田城跡ヘリテージ講座 城郭考古学者の講演会を実施 ○講演会 穴太衆を題材にした小説で直木賞を受賞した作家の講演会を実施 ○竹田城跡親子見学会 朝来市の将来を担う子ども達とその保護者を対象とした、竹田城跡見学会の開催 ○竹田城跡環境美化委託業務 城跡内の草刈り・石垣の除草等の清掃作業を実施 ○竹田城跡樹木等管理業務 樹木等の適正な管理を委託して実施	現在認識している課題	竹田城跡保存活用計画や竹田城跡整備基本計画に基づいて進めている。人材育成のための講座や見学会に関しては、新規参加者は増加傾向にあるものの、リピーターが多く、年齢層も大きく偏っている。そのため、より多くの世代に竹田城跡についての関心を持ってもらい、新たな参加者を増やす取組を進める必要がある。
				今後の方向、見通し、対応策等	城跡を適切に管理し、ふるさとに対する誇りや愛着心を高めるための周知活動を行う環境を整えるとともに、竹田城跡の新たな魅力を発信するため、日本遺産を活かした情報発信・魅力の掘り起こしを進める。若い世代の竹田城跡に対する関心を高めるため、親子見学会や出前講座などを通して市内の学校などに対する働きかけを推進する。また、竹田城跡だけでなく、近隣の山城や城郭遺跡の最新情報など、広域的な情報発信を行うことにより、より多くの人に関心を持ってもらえる取組を進める。
	36 文化財保存活用事業(竹田城跡整備事業)	史跡竹田城跡整備基本計画に基づき、史跡の適切な保護を行うとともに積極的に活用していく。	○竹田城跡整備検討委員会の開催 専門家や市民の代表者等で構成する委員会のなかで、適切な調査、保護の在り方について検討 ○保護・整備工事 大手道、南二の丸周辺の保護工事、土系硬化舗装の敷設や土砂の補充、芝生の敷設を実施 ○現状確認調査 二の丸における遺構の確認調査を実施	現在認識している課題	・竹田城跡の適切な環境整備のための見学通路の整備 ・竹田城跡の保護を図るための調査、地下遺構及び石垣の保護工事の実施 ・史跡指定地周辺に残る城郭関連遺構の保護と史跡の追加指定
				今後の方向、見通し、対応策等	・市内文化財の適正な保護と見学環境の整備を進め、観光客の安心安全と竹田城跡のもつ価値と魅力の発信に努めていく。 ・調査等による竹田城跡の最新情報の発信に努め、ふるさとに対する誇りや郷土愛の醸成を図っていく。